

## 第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

### 報告書資料 支援-17

学校名・団体名	大仙市立太田中学校
HPアドレス	<a href="http://www.edu.city.daisen.akita.jp/~ot-otatyu/">http://www.edu.city.daisen.akita.jp/~ot-otatyu/</a>
コース	学校支援
活動・研究の テーマ	祝福しよう 新校舎誕生を 太田の花で
<p>〈活動・研究の意義目的〉</p> <p>2011年3月11日の東日本大震災発生以降、早6年が過ぎようとしており、被災地では風化を懸念しているようである。本校生徒も震災そのものの記憶が薄れたり、被災当時の年齢が幼かったため、震災の記憶があまり残っていない生徒も入学するようになってきた。千年に一度と言われるくらいの大災害であったこの震災を後世に伝えるため、震災当時の状況を知ること、そして復興に向けて歩んでいる現地の方々と交流し、私たちができることを模索していくことを今年度の重点として活動を進めてきた。</p> <p>これまでの本校の活動を振り返ると、被災地支援活動がきっかけとなり、地域を巻き込んでの生徒間交流へとつながってきた。復興が進み、交流学校は小中一貫学校として10月に新校舎で新たなスタートを切った。これからは、支援ではなく、学校間交流という形でいかに関わっていくかを、生徒会執行部や各学年のプロジェクト委員が中心となり、計画立案、実行をしていかなければならない。</p> <p>新校舎スタートの節目の一年となる今年度に思い出に残る交流活動を行いながら、これまで築いてきた心の絆を大切に、本校学区内の関係各位とも連携をしながら活動を推進していきたい。</p> <p>本校生徒自身も震災を忘れない、被災地の方々の思いをくみ取りながら応援、支援していこうとする活動を展開することによって中学在学時だけでなく、今後長期にわたって被災地を思い続ける気持ちと自分を取り巻く人々への配慮、更に自他の命を尊重しようとする心情、ずっとつながってほしいという気持ちの高まりを今後の交流につなげたい。</p>	

## 交流活動のあらまし

### 1 「つなげよう～笑顔と花の架け橋」第1学年生徒全員（43名）と学年部職員6名

(1)平成28年5月26日（木）～27日（金）

(2)岩手県大槌町、大船渡市を訪問した。大槌町の震災語り部ガイドから震災当時の状況をお話いただき、震災の記憶がほとんどない1年生にとって、大槌町の光景とこの話が衝撃的であった。また、大槌学園から昨年度贈呈したプランターを回収し、大槌学園の生徒のみなさんの生活の様子も知ることができた。毎年、訪問している大槌町内2カ所の仮設団地に夏に開催する「ふれあいミニコンサート」のチラシ配布をしながら町民の方々とも交流した。三陸鉄道「震災学習列車」に乗車し、太平洋沿岸の被災状況や現在にいたる復興や心境の変化など肌で感じることもできた。震災そのものを知ることが必要になってきた、時の移り変わりを感じつつ、震災を風化させてはいけないという思いを生徒は強く抱いたようである。

### 2 「届けよう太田の花を！共に祝おう 新校舎との出会いを」

第2学年生徒全員（60名）と学年部職員5名

(1)平成28年9月27日（火）

(2)大槌学園新校舎を訪問し、6回目となる全校生徒で育てた花プランター230個の贈呈を行い、大槌学園8年生（中学部2年生）全生徒との共同作業で校舎敷地への設置活動を行った。大槌学園8年生（中学部2年生）との交流・共同作業を通してお互いを思いやりながら作業、会話をすることができた。そこから心の距離も少し近付いたように思われる。また、新校舎体育館ではセレモニーが行われた。お互いの挨拶を終えた後、心のこもった熱いエール交換をした。学園で別れるときには、最後まで精一杯手を振り合う姿から、お互いのつながりが強くなってきたように感じた。

### 3 「支援から交流へ 太田の真心を届けよう！ 大槌学園文化祭 PR 活動」

第3学年生徒全員（53名）と学年部職員4名

(1)①平成28年10月21日（金）～22日（土）

(2)①大槌学園文化祭 PR のため、大槌町内にあるショッピングセンターで PR のチラシ配りとよさこい踊りの演舞を行った。また、太田地域から寄贈していただいた新米 800 kg の贈呈、本校のよさこい踊りを演舞し、応援のエール交換をし、互いの交流の絆を深めた。

大槌学園新校舎としてスタートした初年度、交流校を側面から応援する形として文化祭 PR を行い、町民の方々に喜んでいただけた本校生徒も自分たちの活動が後押しになっていることを実感していた。また、大槌学園9年生との交流会では、合唱を披露していただき、生徒の熱き表現活動を目の当たりにし、復興を牽引する中学生の姿に心を打たれた。

### 4 「季節のメッセージを届けよう」 全校生徒（156名）と全職員

(1)平成28年8月11日（木）

(2)手作りうちわを全校生徒と太田町内の3小学校の協力を得ながら制作し、大槌町内の2つの仮設団地住民の方々に届けた。本校生徒有志と小学生、高校生、地域住民の総勢100名ほどで1軒ずつ声をかけて配布した。さらに、JA 太田生産加工婦人部の方々の協力もあり「揚げ干し餅」を頂き、仮設団地に届けた。継続して訪問していることで再会を喜ぶ声や仮設団地敷地内で開催したふれあいミニコンサートで一緒に歌う姿など心のつながりが感じられる光景が多く見られた。

### 5 「絆 お互いのふるさとに想いを寄せて… 大槌と太田のよさを共有しよう」全校生徒（156名）と全職員

(1)①平成28年11月2日（水） ②平成28年11月25日（金）

(2)①大槌学園9年生87名の生徒が来校してくれました。震災後における「備え」についての語り部プロジェクトを披露してくれた。また、プロジェクトの最後は、合唱も披露してくれて、彼らのふるさとを想う気持ちが強く伝わってきた。その後、本校3年生全員と太田産食材をふんだんに使った「きりたんぼ鍋」を囲んで、お互いのふるさとについて語り合いながら楽しく昼食をとることができた。

中学生としてのお互いの交流はこれで終わりであっても、心の中ではずっとつながっているということを互いに誓いあう時間を過ごすことができたように見えた。

②太田3小学校、太田中各学年、太田中学生徒会執行部の大槌交流の1年間の取組について報告会が行われた。その後、意見交換会も行われ、今後の太田町と大槌町の交流をどのような想いで、どのような気持ちで継続していけばよいかを考えることのできたよい機会であった。

## 成果、今後に向けて

本校の教育活動の豊かな心を育むための核となる大槌交流活動は地域に根ざしたものになり、継承していこうとする心情も生徒の中で高まっている。さらに、今年度は「支援」という形から「交流」という形に大きく変わることができた1年であった。6年間交流を続けていた学校が来校してくれたことは、初めてのことである。新しい交流の形ができていたように思う。被災地の状況は変わっていくが、生徒同士の心のつながりは大人になっても変わらないようにするためには、どのような活動を展開していくか、少しずつ見えてきたと思う。今後もよりよい交流活動を続けていきたい。

今年度の活動がスムーズに進められたのは関係諸機関の御理解、御協力に加えて「ちゅうでん教育振興助成」のおかげであり、関係各位に深く感謝している。